

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	四天王寺大学短期大学部
設置者名	学校法人 四天王寺学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数(新課程 H31年度入学生)

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
短期大学部	保育科	夜・通信	8	0	51	59	7	
	生活レクリエーション学科 ライフデザイン専攻	夜・通信		0	80	88	7	
	生活レクリエーション学科 ライフケア専攻	夜・通信	0	0	68	68	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

公式ホームページによる公表 <a href="http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/department/syllabus/tan2021.pdf">http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/department/syllabus/tan2021.pdf</a>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	四天王寺大学短期大学部
設置者名	学校法人 四天王寺学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

公式ホームページによる公表 <a href="http://www.shitennoji.ac.jp">http://www.shitennoji.ac.jp</a>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	(宗) 四天王寺責任役員執事	2018. 6. 22 ~ 2024. 6. 21	宗教法人役員立場から法人経営に関する助言を行う
非常勤	(宗) 四天王寺責任役員執事	2018. 6. 22 ~ 2024. 6. 21	宗教法人役員立場から法人経営に関する助言を行う
非常勤	(株) 日経サービス代表取締役 会長	2018. 6. 22 ~ 2024. 6. 21	経営知識に優れた高度な立場からの法人経営に関する助言を行う
非常勤	うめだ速見法律事務所 弁護士	2018. 6. 22 ~ 2024. 6. 21	①コンプライアンスや経営方針、業務ルールの遵守のための助言を行う ②リスクマネジメントに関する助言を行う
非常勤	天鷲寺 住職	2019. 10. 1 ~ 2022. 9. 30	経営および業務の有効性・効率性の向上に関する助言を行う宗教法人役員立場から法人経営に関する助言を行う
非常勤	(宗) 四天王寺責任役員執事	2019. 10. 1 ~ 2022. 9. 30	宗教法人役員立場から法人経営に関する助言を行う
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	四天王寺大学短期大学部
設置者名	学校法人 四天王寺学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画(シラバス)作成にあたり、『シラバス作成ガイドライン』を全教員に配布し、さらに教職員研修会において「シラバスの作成方法」の研修を行い、理解を深めている。</p> <p>各授業科目については、学則上の位置づけおよび「学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)等を再確認のうえ、記載内容(授業概要、到達目標、授業計画、目標達成のための授業方法・履修上の注意事項、授業時間外に必要な学習、成績評価の方法、など)について検討し、シラバス作成を行うよう依頼している。</p> <p>シラバス作成後には、担当教員以外の第三者による組織的なシラバスチェックを行うため、ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員によるシラバスの内容チェックを行い、教育の質保証に取り組んでいる。</p> <p>作成及び公表時期については、11月から12月にかけて授業計画(シラバス)を作成し、1月から2月にかけてFD委員によるシラバスチェックを行い、修正後3月末に公表を行っている。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>公式ホームページによる公表</p> <p><a href="http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/syllabus/">http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/syllabus/</a></p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>『単位認定の方針について』</p> <p>「単位の修得および試験に関する規程」の成績評価について(第11条-13条)において、試験方法・成績評価方法・基準(秀・優・良・可・不合格)等を定め、履修要覧に掲載し学生に明示している。</p> <p>シラバスには、各科目の成績評価方法等を具体的に掲載し、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与を行っている。また、学修意欲の把握については、本学で独自に設定したものと担当教員の入力による出席状況を学修意欲の目安としている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)  
「GPA制度に関する規程」において、学期GPA及び累積GPAの算出方法を定め、履修要覧に掲載し学生に明示している。  
各学期終了後に保護者宛に成績表を送付しているが、各学期の学期GPAと累積GPAを記載し、お子様の学修状況をご確認して頂き、修学支援を促している。学科(専攻)における修得単位数の分布状況も送付し、学科(専攻)におけるお子様の単位修得状況の位置づけをご確認して頂いている。なお、学科(専攻)における修得単位数の分布状況は、学外ホームページにて公開し、学生自身も学修状況を把握できるようにしている。  
学期GPAの数値の分布状況は、教務委員会で各学科(専攻)の教員に周知し、学生指導に役立てる予定である。

**【GPAの算出方法について】**

評価	秀	優	良	可	不合格
GP	4	3	2	1	0

学期GPA = (当該学期の履修登録科目のGP × 当該科目の単位数) の合計 / 当該学期の履修登録総単位数

累積GPA = (在学全期間の履修登録科目のGP × 当該科目の単位数) の合計 / 在学全期間の履修登録総単位数

・認定科目や評価が未確定または保留の授業科目については、GPAの算定対象外とする。

・再試験、追試験または再受験が発生した場合、当該科目については再試験、追試験または再受験で得た成績評価をGPA算定対象とする。

・再履修により単位を修得した授業科目については、再履修によって得た成績評価と単位数をGPA算定に算入するものとする。なお、当該科目について過去に得た成績評価および単位数はGPA算定から除外しない。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	公式ホームページによる公表 (リンク先の履修要覧 113 ページ参照) <a href="http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/taiouhyou/etc/4-t01.pdf">http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/taiouhyou/etc/4-t01.pdf</a>
----------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)  
本学の教育使命、養成すべき人物像、そのために求められる教育の基本姿勢を受けて、短大全体および各学科・専攻において「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」を定めている。さらに、ディプロマ・ポリシーに基づき、『卒業時点において学生が身につけるべき能力』および到達目標を定め、基礎教育科目・共通教育科目・専門教育科目の各科目に明示している。履修要覧・ホームページに掲載することで学生が2年間を通して計画的に学ぶことができるよう取り組んでいる。  
また、各学科等で定められた卒業要件について、個々の学生が到達しているかを教授会で審議し、卒業を認定している。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	公式ホームページによる公表 <a href="http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html#d_tan">http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html#d_tan</a> 履修要覧に掲載
----------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	四天王寺大学短期大学部
設置者名	学校法人 四天王寺学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/disclosure/other/04_taisyaku.pdf">https://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/disclosure/other/04_taisyaku.pdf</a>
収支計算書 又は損益計算書	<a href="https://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/disclosure/other/01_shikin.pdf">https://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/disclosure/other/01_shikin.pdf</a>
財産目録	<a href="https://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/disclosure/other/05_zaisan.pdf">https://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/disclosure/other/05_zaisan.pdf</a>
事業報告書	<a href="https://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/disclosure/other/06_jigyo.pdf">https://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/disclosure/other/06_jigyo.pdf</a>
監事による 監査報告 (書)	<a href="https://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/disclosure/other/07_kanji.pdf">https://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/disclosure/other/07_kanji.pdf</a>

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称 : _____ 対象年度 : _____ )
公表方法 :
中長期計画 (名称 : _____ 対象年度 : _____ )
公表方法 :

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公式ホームページによる公表 <a href="http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/disclosure.html">http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/disclosure.html</a>
--

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法 :
--------

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 保育科
教育研究上の目的 (公表方法: 公式ホームページにより公表 <a href="http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/idea/data_cg.pdf">http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/idea/data_cg.pdf</a> )
(概要) 保育科は、聖徳太子の仏教精神をもとにした仏教保育の理念と方法を体得し、人間性豊かで慈愛に満ち、受容性と共感性に富む、保育実践力及び社会援助技術の基本を身につけた保育者養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 公式ホームページにより公表 <a href="http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html">http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html</a> )
(概要) 保育科は、聖徳太子の仏教精神をもとにした仏教保育の理念と方法を体得し、人間性豊かで慈愛に満ち、受容性と共感性に富む保育実践力の基本を身につけた保育者養成を目的とします。グローバルな視点が必要な現代社会における保育者の役割を自覚し、仏教保育の理念を理解したうえで、子どもや保育に関する基礎的・基本的な知識の理解と、適切な思考・判断・技術に基づいた保育実践力を身につけることを目指します。 このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の 3 点とします。  1) 慈愛に満ちた保育者として保育現場で活躍できる人格形成 仏教保育の理念と方法を体得し、受容性と共感性に富む慈愛に満ちた保育の実践者として、子どもの成長と共に自らの人格形成を目指すことができる。  2) 保育者として幅広い教養と専門的・実践的な知識および表現・技術の獲得 保育や子どもとそれらを取り巻く社会情勢に関心をもち、保育技術の向上や新たな知識の獲得に意欲的に取り組み、保育や幼児教育、福祉、また子どもや子育てに関する知識を理解し、子どものあそび・表現活動にかかわる基礎的な技術力を身につけるとともに保育現場における適切な表現・援助の方法を体得している。  3) 自己表現力・コミュニケーション能力および課題解決能力の修得 保育現場で起こる課題に対して、適切な判断を下すことができ、コミュニケーション能力を発揮して臨機応変に保育を展開することができる。さらに、自らの保育実践を省みて新たな課題を設定することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 公式ホームページにより公表 <a href="http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html">http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html</a> )

(概要)

(1) 教育課程の編成、教育内容

保育科は、幼稚園教諭2種免許状および保育士資格の取得を基本的な考えとします。

「保育実践演習Ⅰ～Ⅳ」を中心に、保育の本質を捉え、仏教保育の理念に基づいた子ども観や保育観を基礎とした専門的な実践力を身につけることができるように、系統的に分類した6つの科目群について、基礎・基本から応用・発展へ、また、確実な知識・技術の修得から課題解決力を培う探求型の学修態度の育成へと、確実に保育実践力を自ら身につけていくことができるように、各専門科目を年次配置します。

- 1) 保育の本質や意義、保育制度や歴史、保育者の役割に関する科目群には、「保育者論」「保育原理」「教育原論」「社会福祉」などの科目を配置。
- 2) 心理学に基づいた子どもの発達や家庭支援の基礎理論に関する科目群には、「保育の心理学Ⅰ」「子どもの保健」「子ども家庭支援論」「在宅保育」などの科目を配置。
- 3) 保育内容（領域別の理論と実践）・方法に関する科目群には、「幼児教育課程総論」「保育内容総論」「子育て支援」などの科目を配置。
- 4) 保育に必要な表現技術・基礎技能を身につけるための科目群には、「音楽Ⅰ～Ⅳ」「図画工作Ⅰ～Ⅱ」「小児体育Ⅰ～Ⅱ」などの科目を配置。
- 5) 学外実習での課題解決に関する科目群には、事前・事後指導を含む学外実習などの科目を配置。
- 6) 仏教精神を核に、慈愛に満ち、現代の保育課題に対応できる保育者を育てるための本学独自の科目群には、「仏教保育論」「保育実践演習Ⅰ～Ⅳ」「保育探究演習」などの科目を配置。

(2) 教育方法

- 1) 具体的な保育事例やICTの活用を通して、保育への興味や関心を高め、専門的な知識の理解力や課題把握・解決力が身につくような授業を実施します。
  - ・基礎知識や理論に関する科目については、聞く力・書く力を大切に、授業規律の徹底を図ります。
  - ・理論や技術の応用や発展を目指す科目については、グループワーク等を通して協調性を育みなら、話す力や問題解決能力が身につくような授業を実施します。
- 2) 個人差の大きいピアノ演奏能力については、大学入学前から「ピアノ初心者向け基礎講座」を開催します。入学後も個人指導を行います。



3) 異学年交流や地域の保育現場と連携したアクティブ・ラーニングによる教育を実施します。保育実践力を身に付ける意欲を高め、慈愛に満ちた保育者としての態度を培うことができるよう、保育科全教員がティームティーチング制で指導にあたり、学生の学びを推進します。

(3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 上記に示した教育課程における学修成果の評価については、各科目の特性に合わせて、筆記試験や実技試験、課題の提出やレポート作成による多様な評価方法により、基礎的な聞く力や書く力等の学修態度も含めて評価します。
- 3) 慈愛に満ちた保育者としての資質・態度を身につけるために、授業への出席回数のもとより、グループワークや発表などへの参加度、グループで作成するワークシートも評価のひとつとして取り入れます。
- 4) ピアノ技術力については、個人差が大きいため、ルーブリックによる評価を行います。
- 5) 保育科の核となる「保育実践演習Ⅰ～Ⅳ」では、毎回の授業で作成するワークシートと各セメスターの最後にまとめるレポートによって構成される学修ポートフォリオによる評価をセメスターごとに行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：公式ホームページにより公表  
<http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html>）

(概要)

保育科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 保育や子どもに対する学びへの興味・関心が高く、慈愛に満ち、将来、保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）となる意志が明確なこと。  
〔求める要素：関心・意欲・態度、表現力、主体性・多様性・協働性〕
- 2) 将来、保育現場で、子どもの援助だけではなく、子育て支援等における保護者への支援の基礎となるコミュニケーション能力や自己表現力を、仲間と協調して高めようとする姿勢のあること。  
〔求める要素：関心・意欲・態度、表現力、主体性・多様性・協働性〕
- 3) 保育現場で要求される保育技術、特にピアノ演奏についての能力の

獲得意欲のあること。

〔求める要素：関心・意欲・態度、知識・技能、表現力、主体性・多様性・協働性〕

- 4) 高校生活全般を通して自分の知的好奇心を育てながら、高等学校で学ぶ基礎学力（特に国語）および音楽に対する基本的な知識を身につけていること。

〔求める要素：関心・意欲・態度、知識・技能、主体性・多様性・協働性〕

学部等名 生活ナビゲーション学科

教育研究上の目的（公表方法：公式ホームページにより公表

[http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/idea/data\\_cg.pdf](http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/idea/data_cg.pdf))

（概要）

生活ナビゲーション学科は、建学の精神である聖徳太子の仏教精神とそれに基づく学園訓の見地より、誠実・礼儀・健康を心に留め、自己と他者が調和し共に社会貢献する人格形成に努め、幅広い教養を身につけることを教育研究上の目的とする。それを具現化するため、自らのキャリアデザインを描き、社会経済状況の動向に関心を持ち、必要な専門的知識や技術を修得することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：公式ホームページにより公表

<http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html>)

（概要）

生活ナビゲーション学科では、建学の精神に基づき豊かな教養とビジネスパーソンとしての実務力、質の高い介護サービスを提供できる力の体得を目指し、（各専攻の専門性を土台として）社会に貢献できる人材の育成を目的とします。

このため、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の3点とします。

- 1) 建学の精神に根ざした人格形成

建学の精神である聖徳太子の仏教精神を理解し、和のこころをもちビジネス現場や介護現場において貢献することができる。

- 2) 社会で求められる基礎力の修得

基礎学力をはじめとして、ビジネスパーソンや介護福祉士として求められる専門知識・技能を修得し、活用することができる。

- 3) 問題解決能力の修得

社会状況に関心を持ち、自らのキャリアプランを描く為に、物事に積極的にチャレンジします。また、介護を必要とする対象を多面的に捉え、チームの一員として行動することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：公式ホームページにより公表  
<http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html>）

（概要）

（１）教育課程の編成、教育内容

生活ナビゲーション学科の教育課程は、短期大学部共通である「基礎教育科目」「共通教育科目」と専攻ごとの「専門教育科目」によって構成されています。専攻に共通する教育方針は、社会人基礎力の修得を土台とし、専攻の専門性を積み上げ、各種資格の取得を目標としています。

（２）教育方法

- １）各科目における講義・演習・実習という学習形態によって、主体的・能動的な学びの実践を行います。
- ２）学びの集大成としての、資格取得を目標とします。

（３）学修成果の評価方法

- １）教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- ２）科目の特色に応じ定期試験、小テスト、課題提出などにより評価します。
- ３）実習・演習・学外実習では、実戦での学修態度を重視し評価します。
- ４）各種資格の取得により評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：公式ホームページにより公表  
<http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html>）

（概要）

生活ナビゲーション学科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として具体的には次のような資質・能力・目的意識をもった人物を求めます。

- １）自らの将来像を描き、資格取得を目指そうとする人物。
- ２）高等学校までの基礎学力を身につけている人物。
- ３）コミュニケーション能力を高める努力、社会への関心を持っている人物。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：公式ホームページにより公表  
<http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/about/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	0人	—					0人
保育科	—	5人	3人	3人	0人	0人	11人
生活ナビゲーション学科	—	5人	2人	4人	0人	0人	11人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			50人				50人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：公式ホームページにより公表 <a href="http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/kaken.html">http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/kaken.html</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>令和2年度については、以下のような取り組みを主に行った。</p> <p>(1) 学内授業相互参観 各学科の専門教育科目および教職科目の相互授業参観を実施。対象は専任教員・職員、非常勤講師を問わず公開した。授業参観後は合評会で意見交換を行い、今後の授業改善に役立てた。</p> <p>(2) ファカルティ・ディベロップメント委員によるシラバスチェック 学科等のカリキュラム・ポリシーに基づくシラバスのチェックを各学科・専攻のファカルティ・ディベロップメント委員に依頼、実施した。チェック項目は「授業概要」「授業計画」「目標達成のための授業方法」「成績評価の方法」等である。 カリキュラム・ポリシーと照らしあわせて適切か、隣接する科目との内容重複などをチェックした。</p> <p>(3) 学生による授業評価アンケートの実施 学生のスマホ等を使って、学生による授業評価アンケートを夏学期と冬学期の2回実施した。結果を参考に科目担当教員は授業改善コメントを改善コメント記入欄に記載して、結果は図書館で閲覧できるようにした。集計結果はホームページに公開した。</p> <p>(4) 「FD・SD報告書」の作成 令和2年度のFD活動状況をまとめて「FD・SD報告書」を作成し、ホームページにも公開した。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
保育科	120人	81人	67.5%	240人	184人	76.7%	0人	0人
生活ナビゲーション学科	120人	110人	91.7%	240人	229人	95.4%	0人	0人
合計	240人	191人	79.6%	480人	413人	86.0%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
保育科	112人 (100%)	5人 ( 4.7%)	103人 ( 92%)	4人 ( 3.6%)
生活文化デザイン学科	118人 (100%)	4人 ( 3.4%)	104人 ( 85.6%)	10人 ( 8.5%)
合計	230人 (100%)	9人 ( 3.9%)	207人 ( 90%)	14人 ( 6.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 進学先：四天王寺大学 就職先：立川ブラインド(株)、大阪市立保育所、四天王寺福祉事業団 (備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>授業計画(シラバス)作成にあたり、『シラバス作成ガイドライン』を全教員に配布し、さらに教職員研修会において「シラバスの作成方法」の研修を行い、理解を深めている。</p> <p>各授業科目については、学則上の位置づけおよび「学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)等を再確認のうえ、記載内容(授業概要、到達目標、授業計画、目標達成のための授業方法・履修上の注意事項、授業時間外に必要な学習、成績評価の方法、など)について検討し、シラバス作成を行うよう依頼している。</p> <p>シラバス作成後には、担当教員以外の第三者による組織的なシラバスチェックを行うため、ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員によるシラバスの内容チェックを行い、教育の質保証に取り組んでいる。</p> <p>作成及び公表時期については、11月から12月にかけて授業計画(シラバス)を作成し、1月から2月にかけてFD委員によるシラバスチェックを行い、修正後3月末に公表を行っている。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)「単位の修得および試験に関する規程」の成績評価について(第11条-13条)において、試験方法・成績評価方法・基準(秀・優・良・可・不合格)等を定め、履修要覧に掲載し学生に明示している。</p> <p>シラバスには、各科目の成績評価方法を具体的に掲載し、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与を行っている。また、学修意欲の把握については、短大等で独自に設定したものと担当教員の入力による出席状況を学修意欲の目安としている。</p> <p>本学の教育使命、養成すべき人物像、そのために求められる教育の基本姿勢を受けて、短大全体および各学科・専攻において「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」を定めている。さらに、ディプロマ・ポリシーに基づき、『卒業時点において学生が身につけるべき能力』および到達目標を定め、基礎教育科目・共通教育科目・専門教育科目の各科目に明示している。履修要覧・ホームページに掲載することで学生が2年間を通して計画的に学ぶことができるよう取り組んでいる。</p> <p>また、各学科等で定められた卒業要件について、個々の学生が到達しているかを教授会で審議し、卒業を認定している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
短期 大学部	保育科	62 単位	④・無	なし
	生活ナビゲーション学科 ライフデザイン専攻	62 単位	④・無	半期 30 単位
	生活ナビゲーション学科 ライフケア専攻	82 単位	④・無	なし
GPAの活用 状況(任意記載事項)	公表方法:HPに公表(リンク先113ページ参照) <a href="http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/taiouhyou/etc/4-t01.pdf">http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/taiouhyou/etc/4-t01.pdf</a>			
学生の学修 状況に係る参考 情報 (任意記載事項)	公表方法:ホームページにより公表(現在、公開に向けて作成中) ・学生の学修時間 ・学生の満足度 ・学生の学修意欲			

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法:公式ホームページによる公表 <a href="https://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/map.html">https://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/map.html</a>
---

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
短期 大学部	保育科	837,000 円	300,000 円	320,000 円	施設拡充費、運営維持費
短期 大学部	生活ナビゲーション 学科	837,000 円	300,000 円	320,000 円	施設拡充費、運営維持費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生支援センター所管のピアサポート「PIATA」において、所定の講習を終了した学生による後輩の各種手続きや相談受付、教員による国語と英語のリメディアル教育を行うなどしている。グローバル教育センターである i-Talk にて、海外研修・留学の支援を行っている。また、障害のある学生より申請があれば、他の者と平等に教育を受けるための合理的配慮の提供を行っている。ただし、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症感染の懸念があったため、対面で行っている支援の実施見送りや、遠隔での実施にせざるを得なかった。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
キャリアセンターでは、民間企業、公務員、福祉施設、保育園・幼稚園希望者の進路支援を、教職教育推進センターでは、教員希望者の進路支援を行っている。キャリア形成支援として「キャリア関連科目」を1年次から順次開講するとともに、学生の職業観醸成に有効かつ、就職に於けるミスマッチを防げる要因とされるインターンシップの参加を積極的に推進している。また、コロナ禍において対面での面談が厳しい状況ではあったが、リモートを駆使し、学生の進路相談や悩みを聞き取り、就職活動が滞る事が無いようにサポートするとともに、企業を招聘しリモートにてセミナーを開催した。その他、段階的な就職ガイダンスやテーマ別講座を実施し、学生個々が自信をもって就職活動を開始できるようにサポートし、学生の希望に沿った職業選択の実現を目指している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生の心身の健康支援は、保健センターとそれに併設した学生相談室が担っている。保健センターでは保健師・看護師が常駐し、応急処置や健康診断事後措置、禁煙支援等啓発活動も行っている。校医による健康相談も随時対応している。 学生相談室には専任臨床心理士・専任公認心理師が常駐し、学生の心の相談はもちろん、人間関係が苦手な学生の支援として居場所作りやイベント企画、課題提出のスケジュール管理等をし、多様な学生のニーズを把握し適切な支援に誘導する拠点としても機能している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：公式ホームページによる公表 <a href="https://shitennojuniuniversity.repo.nii.ac.jp/">https://shitennojuniuniversity.repo.nii.ac.jp/</a>
---

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F227310108598
学校名	四天王寺大学短期大学部
設置者名	学校法人 四天王寺学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		82人	1人	83人
内 訳	第Ⅰ区分	50人	1人	
	第Ⅱ区分	24人	0人	
	第Ⅲ区分	8人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				1人
合計（年間）				84人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数



	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		1人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		1人	1人
「警告」の区分に連続して該当		0人	11人
計		1人	12人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
年間	前半期	後半期	
		0人	0人

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		1人	0人
G P A等が下位4分の1		21人	3人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		11人	0人
計		21人	3人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。